

第46期 中間報告書

(2022年3月1日～2022年8月31日)

● 株主・投資家の皆様へ

2022年7月にオープンした品川旗の台店（東京オフィス併設）



証券コード7516

ホームセンター
コーナン商事株式会社

株主の皆様へ

第46期第2四半期 (2022年3月1日～2022年8月31日)の事業の状況

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。第46期第2四半期までの概況についてご報告申し上げます。

当期の実績は前年までの新型コロナウイルス感染症拡大に伴う外出制限がなくなり、行楽地や旅行などに多くの方が外出されたことなどによる客数の減少もあり、計画を下回る結果となりました。また、為替相場の急激な円安進行、原材料費の高騰及び海上運賃の上昇などによる輸入コストの増加、原油高による水道光熱費の上昇などが、売上総利益以下各利益項目を大きく押し下げる要因となりました。一方で、建築需要の回復を受け、リフォーム工事や建築職人向けのPRO業態は、引き続き好調に推移いたしました。

結果として、コーナングループ連結で、売上高は2,143億24百万円（前年同期比0.3%増、計画比2.1%減）、売上総利益は812億32百万円（同1.3%減、同4.2%減）、営業利益は134億99百万円（同15.9%減、同16.7%減）、経常利益は127億96百万円（同15.7%減、同16.4%減）、当期純利益は85億22百万円（同15.9%減、同13.9%減）となり、売上高は前年同期を超えたものの、各利益項目におきましては、前年同期を下回りました。また、第3四半期以降も、同傾向は継続するとの見通しから、通期の業績予想に関しましては、下方修正いたしました。期初の計画数値を下回る発表となり、株主の皆様には、お詫び申し上げます。詳細の修正数値に関しましては、本中間報告書内の「第46期計画」をご覧くださいませようお願い申し上げます。なお、当期より「収益認識に関する会計基準」等を適用しており、前年同期比は、前年度の実績に新しい会計基準を適用したと仮定して算出しております。

新規出店につきましては、ホームセンターを5店舗、コーナンPROを5店舗、CAMP DEPOTを2店舗、建デポを3店舗、ビーバーPROを1店舗、コーナンベトナムを2店舗、コーナンカンボジアを1店舗の計19店舗をオープンしたため、当第2四半期末時点のグループ店舗数は521店舗となりました。

当期は、長期ビジョン“New Stage 2025”の実現に向けて、第3次中期経営計画の2年目となります。不安定な経済状況の



代表取締役社長 足田 直太郎

もと、マイナス要因も多くありますが、当社の強みであるPRO業態の強化とPB商品の開発を一層進め、海外事業にも注力しつつ、DXを活用した生産性の向上により人件費などの経費コントロールを確実にを行い、売上・利益計画の達成を目指してまいります。

株主還元の充実

当社は、株主の皆様に対する利益の還元を経営上の重要課題の一つとして位置づけ、業績の見通し、事業活動への投資、財務健全性などを総合的に判断しながら、長期にわたって安定した配当を実施することを基本方針としております。この方針のもと、当期の1株当たり中間配当は、4月に公表した通り、前期末より10円増配し45円といたしました。期末配当につきましても同様の45円とし、年間の配当額は、前期より20円増配し、90円の予定とさせていただきます。これにより9期連続の増配となる予定です。また、自己株式の取得におきましても、公表通り8月末時点で、約40億円、1,085,100株（自己株除く発行済株式数の3.46%）の取得を行いました。これにより、今期、総還元性向は50%を超える見込みです。株主還元の目標としましては、第3次中期経営計画期間中（2021-2025）において、総還元性向30%以上、D O E（株資本配当率）2.0%を目指してまいります。引き続き、投資計画および財務の健全性維持などを総合的に勘案して利益還元を継続してまいります。

株主の皆様におかれましては、引き続き絶大なるご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。